

ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム

第2回オンライン交流会報告書

作成日：2025/12/4

1. オンライン交流会の概要と詳細

(ア) 全体概要

日時	令和7年11月19日（水）13:00～14:30
場所	Zoom
参加人数	51 ※参加者人数は交流会開始時の人数であり、交流会等による途中の増減は含まない
参加対象者	ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム会員 ※基本的には会員向けの交流会としておりますが、非会員企業にもご参加いただきました

※ 交流会の目的・背景については[報道発表](#)をご参照ください。

※ 第1回オンライン交流会の報告書は[こちら](#)よりご確認いただけます。

(イ) 交流会詳細

本交流会では、前半にプラットフォーム（以下、「PF」という。）会員によるネイチャーポジティブ（以下、「NP」という。）関連プロジェクトや取組・技術の紹介が行われ、後半には5名程度の参加者ごとに分かれて、各グループで参加者同士の交流が行われた。

各プログラムの詳細およびタイムスケジュールは下表のとおり。

プログラム詳細	時間
① 挨拶（環境省生物多様性主流化室：永田室長）	3分
② 環境省からのお知らせ「PFの使い方」について（環境省生物多様性主流化室：吉村）	3分
③ ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォームのプロジェクト説明・質疑応答（群馬県自然環境課：原田様） ■ 群馬県におけるネイチャーポジティブ経営を基盤としたリビングラボ構想の紹介 ■ ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォームにて実施しているセミナーやワークショップ、マッチング支援等の取組共有 等	12分
④瀬戸内諸フォーラムのプロジェクト説明・質疑応答（株式会社イノカ：松浦様） ■瀬戸内の藻場減少に取り組む、環境移送技術を中心とした産官学連携プラットフォーム構想の共有 ■実際に瀬戸内にて実施した藻場調査の結果から対策検討までのプロセス紹介 等	12分
⑤ 株式会社アルヌールのNP事業説明・質疑応答（株式会社アルヌール：星様） ■「畜産の脱炭素」と「海の生態系の回復」に取り組む事業の紹介 ■海藻の陸上養殖技術を活用し、海洋の生態系を回復させるための「海の花咲かじいさん（仮）」プロジェクトの紹介 等	12分
⑥ 株式会社ゼロボードのNP事業説明・質疑応答（株式会社ゼロボード：石森様/鍋島様） ■NP経営の推進における課題感と企業間連携の必要性の説明 ■ESGプラットフォームの運用や企業のサステナビリティ情報開示担当者向けに実施している自然資本研究会の共有 等	12分
⑦ クロストークセッション：連携・協働の可能性について	20分

2. 全体振り返り

(ア) アンケート結果サマリ

交流会全体については、「非常に満足」「満足」が約9割と第1回よりもやや高い水準となった（図1参照）。

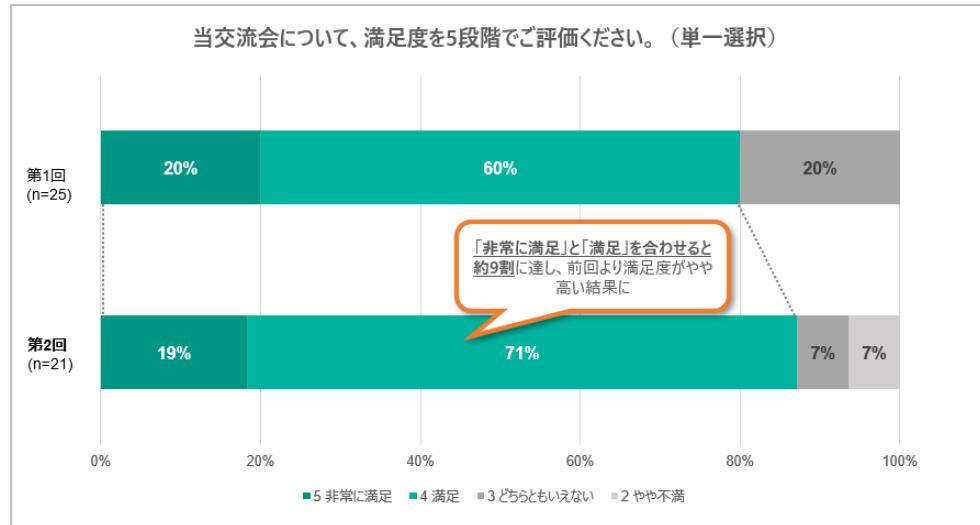
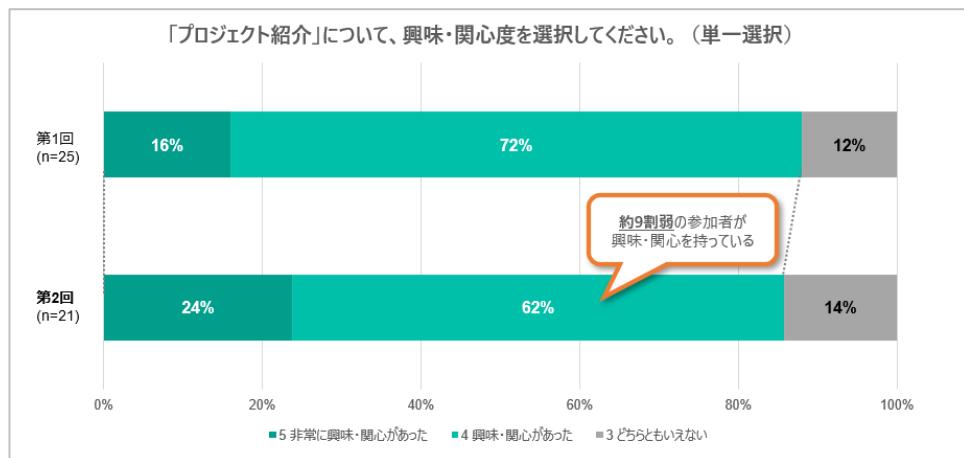


図1：全体の満足度比較

参加者からは「自治体や企業の取組を知ることができ、大変参考になった」「異業種の方と話し、連絡先交換ができた」「様々な立場の方の話を聞くことができた」といったコメントが寄せられた。情報収集やネットワーキングの場として交流会への期待が高まっていることが伺える。

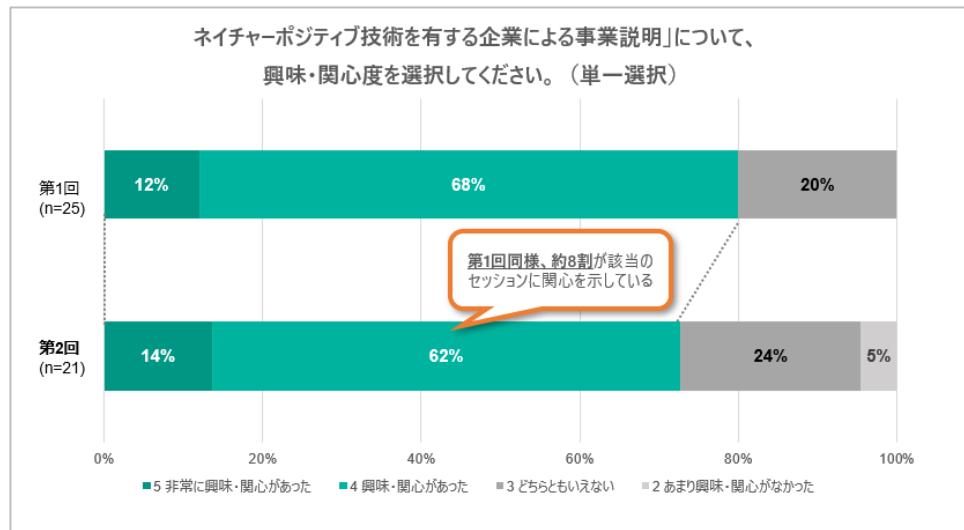
各プログラムへの関心度も第1回と同様に高い結果となっている。特に「プロジェクトオーナーによるプロジェクト紹介」は8割以上が強い関心を示し、「具体的な取組を知ることができて参考になった」「自治体が先駆的に取り組んでいることが理解できた」といった声が挙がっている（図2参照）。

図2：プロジェクト紹介に関する興味・関心度比較



同様にネイチャーポジティブ技術を有する「NPEソリューション・パートナーズ企業による事業説明」においても、7割以上が高い関心を示す、「各社の具体的な取組や技術紹介が参考になった」「生物多様性測定技術や課題について知ることができた」など、事例紹介・技術情報へのニーズが根強いことがうかがえる（図3参照）。こうした傾向は第1回とほぼ同様であり、参加者のニーズに継続して応えられていると考えられる。

図3：事業説明に関する興味・関心度比較



クロストークセッションについては、約7割が関心を示している（図割愛）。「少人数で具体的な課題を議論できた」「異なる立場の意見が参考になった」「活発な意見交換ができた」など、対話や交流の場として有効活用できたという声が挙がっている。また、オンラインにつき名刺交換ができない中、Zoomのブレイクアウトルームのチャット上でメールアドレス等を共有するなど、今後の連携・協業に向けた具体的なきっかけを手にした参加者も存在した。実際に複数の参加者から、興味を持った取組や連携したい企業・団体があったと回答いただいている。

今後も、参加者の関心やニーズを踏まえ、具体的な事例紹介や情報提供の充実、交流しやすい運営方法の検討を継続する。

(イ) クロストークセッションサマリ

交流会のクロストークセッションでは、「連携・協働の可能性について」をテーマに、NP関連取組の推進に向けてどのようなステークホルダーとどのように連携・協働できるかについて意見交換が行われた。今回は、事務局から課題を起点とした連携のあり方についての観点が提示された。参加者は、自社や団体の抱える課題やその解決に向けた連携・協働の有効性、必要な資源や連携先の具体的なイメージについて議論を深めた。

チームの中には、NPに関心を持つ企業が少ない地域でどのようにNPの取組を広げていくかといった広い視野の課題についても議論が行われた。自治体や地元企業とのネットワークづくり、情報発信の工夫、関心層の拡大に向けたアプローチなど多様な連携や働きかけが今後の推進には不可欠であるとの認識が共有された。

以上